

不十分だった情報伝達

当時、気象台などからの警報や台風情報の伝達方法には、次の3つがありました。

- ① 電電公社（現NTT）
- ② 行政機関
- ③ NHKなどの放送機関

①②は市町村を経由したのですが、過去の被災経験によって、市町村ごとの対応が大きく異なっており、早い所では午後1時に避難命令が発令されていたものの、伊勢湾奥部の市町村では、発令が午後7時を過ぎていたり、発令のないまま被災したりしたところもありました。

③による報道は、被害状況の伝達が目的だった「被害報道」から、台風情報の伝達が目的の「防災報道」に転換された最初のものでした。しかし停電のため、この「防災報道」は多くの住民には届かず（当時の電池式ラジオの普及率は名古屋市内で21%）、避難につながりませんでした。早く正確な情報を伝える必要性を、改めて痛感します。

台風による被害を軽減するには

台風は、突然起きる地震とは違い、正確な情報を集めることで、被害を小さくすることができます。テレビやラジオなどで最新の情報を入手し、警報や注意報の発表、台風や前線などの動きに注意しましょう。

台風情報の見方を覚えよう

テレビやインターネットで提供される台風情報。気象衛星の画像や天気図などと組み合わせると解説されているものの、今ひとつ理解できないというのが正直なところではありませんか？台風情報の見方を覚えれば、台風への理解が深まり、適切な準備につながります。

■台風情報の見方



台風の大きさと強さを知る

気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安として、風速を基に台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。大きさは「強風域（風速15m/s以上）」の半径で、強さは最大風速で区分します。強風域の内側で、風速25m/s以上の風が吹いていると予測される範囲を「暴風域」と呼びます。台風に関する情報では、これらを組み合わせ、例えば「大型で強い台風」のように呼びます。

■台風の大きさ

階級	風速 15m/s 以上の強風域の半径
大型 (大きい)	500 km以上 800 km未満
超大型 (非常に大きい)	800 km以上

■台風の強さ

階級	最大風速
強い	33m/s 以上 44m/s 未満
非常に強い	44m/s 以上 54m/s 未満
猛烈な	54m/s 以上

※12・13ページの「消防かわら版」でも、台風や竜巻などに関する情報を掲載しています。